

奥州市未来羅針盤図「水沢江刺駅周辺エリアプロジェクト」
南岩手交流プラザリニューアル構想

令和7年3月

奥州市

目次

1	南岩手交流プラザリニューアル構想の全体像.....	3
(1)	南岩手交流プラザが果たすべき役割	3
(2)	南岩手交流プラザがリニューアルで目指す姿	3
2	南岩手交流プラザリニューアル構想とは.....	5
(1)	南岩手交流プラザリニューアルの背景と目的	5
3	南岩手交流プラザの現状と課題.....	5
(1)	南岩手交流プラザの利用者数の推移	5
(2)	南岩手交流プラザの現状	6
(3)	南岩手交流プラザの課題	10
4	南岩手交流プラザのリニューアルに向けて.....	11
(1)	南岩手交流プラザのターゲット.....	11
(2)	南岩手交流プラザが担う役割.....	12
(3)	水沢江刺駅周辺エリアプロジェクトとの関係	12
5	南岩手交流プラザの新たなコンセプト	13
6	南岩手交流プラザに必要な機能の検討	13
7	基本構想の実現に向けて.....	14
(1)	南岩手交流プラザ利活用の前提条件	14
(2)	運営方法の検討	15
(3)	デジタル技術のさらなる導入.....	15
(4)	スケジュール.....	15

1 南岩手交流プラザリニューアル構想の全体像

(1) 南岩手交流プラザが果たすべき役割

本書「南岩手交流プラザリニューアル構想」は、奥州市の情報発信拠点である南岩手交流プラザをリニューアルするための指針として定めるものです。

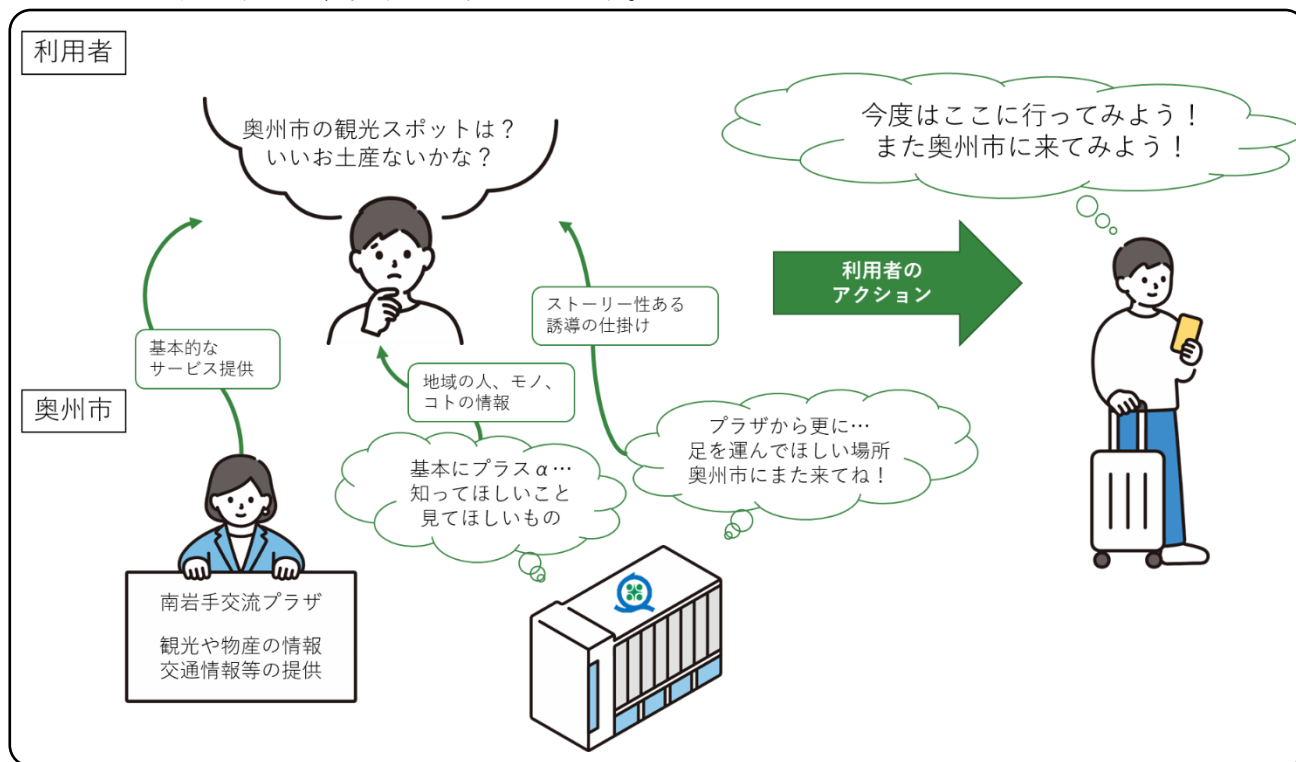
ここでは、構想を策定するための土台として、南岩手交流プラザが果たすべき役割と、リニューアルすることで目指すゴールを整理しておきたいと思います。

南岩手交流プラザは、奥州市唯一の新幹線停車駅である水沢江刺駅の構内に位置しており、おのずと新幹線を利用する人たちが主な利用者になります。まずは、主な利用者のニーズを満たすとともに、奥州市のことをよく知ってもらえるようにしなければなりません。

そのうえで、市内のほかの場所にも足を運んでもらえるようなストーリー性ある誘導の仕掛けを取り入れ、周遊や奥州市への再訪につなげる必要があります。

つまり南岩手交流プラザは、単なる情報発信拠点に留まらず、利用者が次のアクションを想像するきっかけとなるような、インスピレーションを与える役割を果たさなければならないのです。

これを図にすると、以下のようになります。



(2) 南岩手交流プラザがリニューアルで目指す姿

このあるべき姿を実現するために、南岩手交流プラザが目指すのは「市外の人と奥州市の人、モノ、コトを結び、未来へつなぐ拠点」となることです。

この言葉には、「市外の人に奥州市のさまざまなファクターを知ってもらいたい」ということと、「そこからインスピレーションを得て、行ってみたい場所や次に奥州市に来た時のことといった、未来のことを想像してもらいたい」という思いを込めています。

また、これまでのような実際の「モノ」を中心とした展示から、デジタル技術によって視覚や聴覚を刺激するコンテンツを中心とした情報発信へと転換し、利用者の印象に残る施設となることを目指します。

リニューアル後のプラザの具体的な姿は、他の観光案内施設等のデザインも参考にしながら設計していきます。

【参考：北九州市総合観光案内所】



【参考：デジタル文化財ミュージアム KOISHIKAWA XROSS】



2 南岩手交流プラザリニューアル構想とは

(1) 南岩手交流プラザリニューアルの背景と目的

奥州市の情報発信拠点である南岩手交流プラザは、昭和 60 年の水沢江刺駅開業と同時に「南岩手物産館」として駅構内に開設され、平成 11 年の大規模改修と数度の小規模リニューアルを経て、現在の形となっています。奥州市には全国に誇れる伝統工芸品、農畜産物、観光地があり、南岩手交流プラザは奥州市の玄関口として、これらの情報を発信する機能を担ってきました。

近年、人口減少や少子高齢化が進む中、地域経済の持続には観光など交流人口の増加が欠かせません。しかし、日本人の国内旅行者数がコロナ禍前の水準まで回復しない中、交流人口の拡大に向けて大きく期待されるのが訪日外国人旅行者（インバウンド）で、令和 6 年の年間訪日外客数は 3,686 万 9,900 人（推計値）と年間過去最高を記録しており、奥州市の外国人旅行者入込数も 20,000 人を超えるなど、コロナ禍前の水準まで回復する伸びを見せています。また、奥州市では江刺フロンティアパークⅡの全 12 区画が完売し、新たな企業が立地することで令和 7 年度以降 1,400 人以上の雇用が生まれ、半導体や自動車関連企業のビジネス目的で当市を訪れる人も今後増える見通しです。

このような中、奥州市では「奥州市未来羅針盤図」を掲げ、水沢江刺駅周辺エリアプロジェクトを立ち上げました。水沢江刺駅周辺が奥州市の観光とビジネスの拠点として相応しい場所になるため、南岩手交流プラザのリニューアル事業を重要な施策として推し進め、奥州市の情報ターミナルとして最大限活用することを目指しています。

(2) リニューアル構想の位置づけと上位・関連計画について

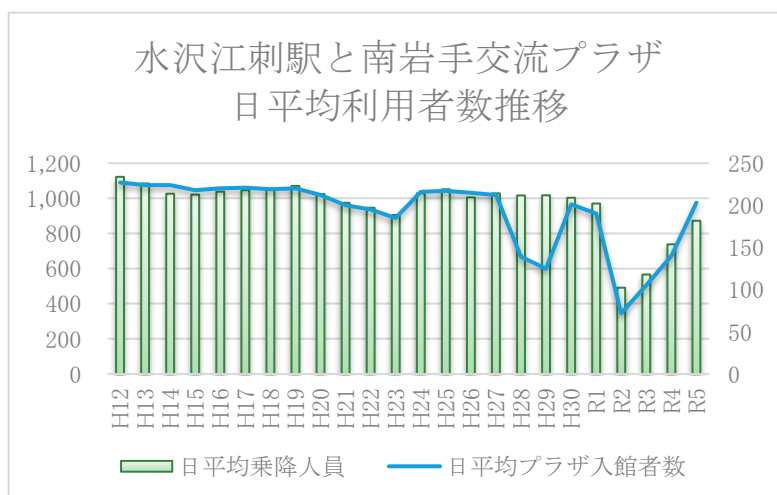
本書では、奥州市未来羅針盤プロジェクトの「水沢江刺駅周辺エリア開発基本構想」に基づき、南岩手交流プラザのリニューアル構想を策定します。「水沢江刺駅周辺エリア開発基本構想」では、南岩手交流プラザは利用者の多様なニーズへの対応、効果的な情報提供、地域住民や地元企業にとっての価値創出のため、「奥州市の未来を発信する拠点」としてリニューアルすると明記されており、この基本方針に沿ってリニューアル構想を策定していきます。

3 南岩手交流プラザの現状と課題

(1) 南岩手交流プラザの利用者数の推移

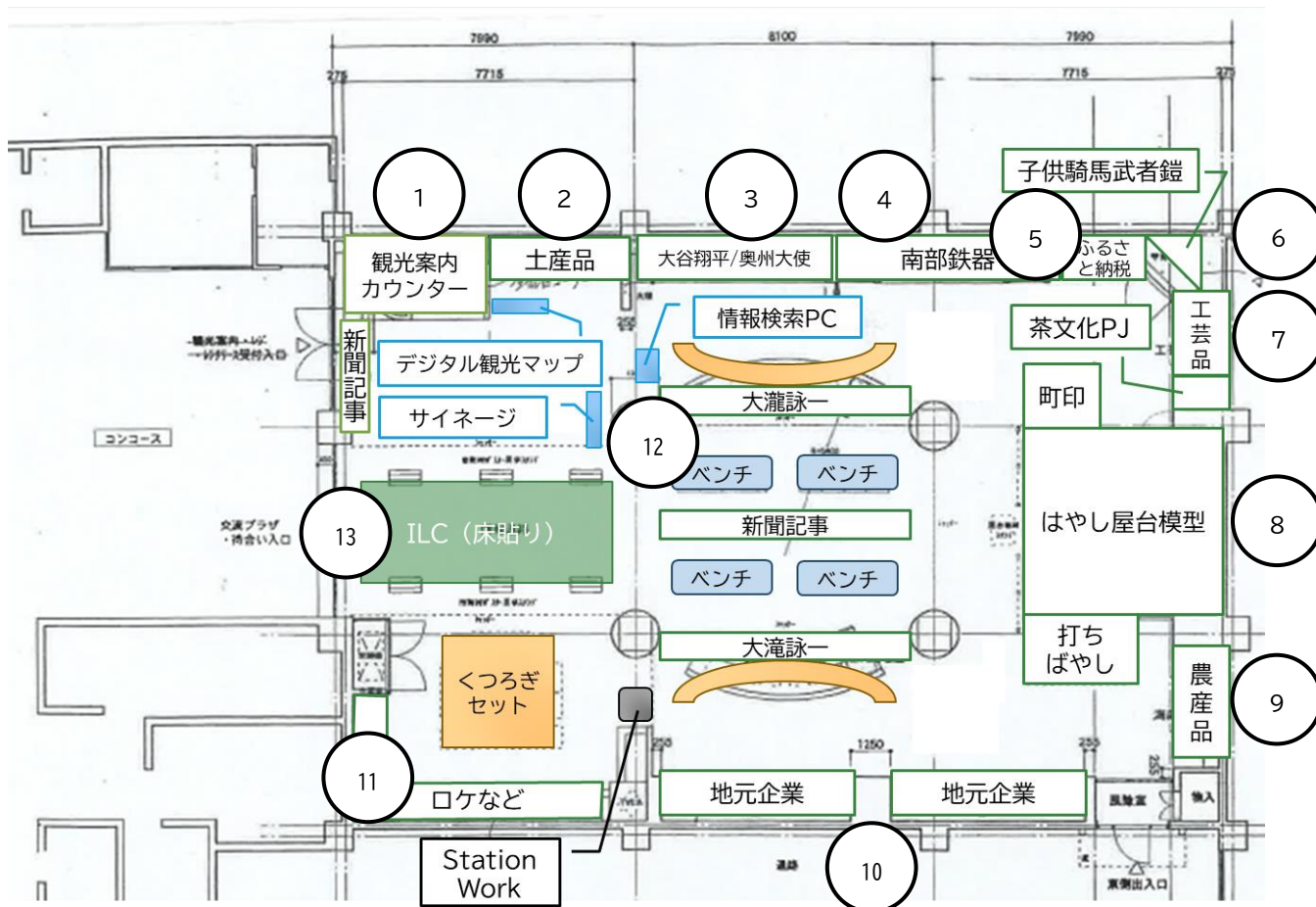
南岩手交流プラザ（以下「プラザ」という。）の令和 5 年度利用者数は 74,257 人、日平均 203 人で、対前年比 145%となりました。下のグラフはプラザと水沢江刺駅の日平均乗降客数の推移を比較したのですが、プラザの利用者数と駅の乗降客数の増減が連動していることがわかります。

水沢江刺駅の日平均乗降客数は、令和 5 年度実績で 872 人でした。このうち、定期利用者のほとんどはプラザの開館時間（午前 9 時から午後 5 時まで）外の通勤・帰宅時間帯に駅を利用していると考えられるため、プラザ利用者の多くは駅の定期



令和5年度の水沢江刺駅定期外利用者は日平均 563 人で、プラザの日平均利用者数はその 36%を占めています。

下の図面は、プラザの現在のレイアウトを示したものです。以下、項目番号ごとに各展示スペースの状況を列挙します。



観光ガイド団体のスタッフが、市内観光名所の紹介や交通手段、宿泊施設などの情報を提供しています。開設時間は午前9時から午後5時まで。平成30年からJNTO認定外国人登録案内所の認定を受けています。また、令和7年2月からはデジタル観光マップも設置されました。

関係団体：奥州市観光物産協会



②土産品コーナー 奥州市のお土産品を展示しています。それぞれの QR コードを読み込むと、商品の詳細ページにアクセスすることができます。 関係団体：奥州市観光物産協会	
③大谷翔平/企画展示コーナー ガラス窓が設置されている展示コーナーです。現在は大谷将平選手ふるさと応援団と奥州大使の紹介コーナーとして利用しています。 担当：奥州市生涯学習スポーツ課 奥州市未来羅針盤課	
④南部鉄器コーナー 南部鉄器紹介コーナーとして、特別な意匠を施しています。平成 11 年の大規模改修の際に設置されたと見られます。 関係団体：水沢鋳物工業協同組合	
⑤ふるさと納税コーナー 奥州市のふるさと納税を紹介するコーナーです。QR コードを設置し、ふるさと納税サイトにアクセスできるようになっています。 担当：奥州市未来羅針盤課	

⑥子供騎馬武者鎧 昭和 11 年に始まり、毎年 5 月に開催される子供騎馬武者行列の鎧を展示しています。この鎧は昭和 62 年に、行列の創始者である故石橋太平氏から寄贈されたものです。 関係団体：駒形神社	
⑦岩谷堂箆笥/茶文化プロジェクトコーナー 岩谷堂箆笥と、その並びに茶文化プロジェクト（奥州市、仙北市、掛川市、多治見市）の茶器・パネルを展示しています。 関係団体：岩谷堂箆笥生産協働組合 担当：奥州市商業観光課	
⑧日高火防祭模型展示コーナー 岩手県指定無形民俗文化財である日高火防祭を紹介するコーナーです。展示している模型は、旧水沢市時代に市民や企業からの寄附金で作成したものです。メインのはやし屋台模型は左右に「屋台振り」を見せてくれます。メンテナンスはしていますが、製造から 40 年が経過し、老朽化が進んでいます。 平成 11 年の大規模改修の際、それまで施設中央部にあったものを奥に移動させましたが、施設内での移動だけでも多額の経費がかかり、別の施設に移動させることは容易ではありません。 担当：奥州市商業観光課	

⑨農産品コーナー JA 岩手ふるさと、JA 江刺の特産品を紹介するコーナーです。 関係団体：JA 岩手ふるさと、JA 江刺	
⑩地元企業紹介コーナー 奥州市内の企業の製品などを展示・紹介するコーナーです。展示する企業は、1年ごとに入れ替わっています。 担当：奥州市企業振興課	 
⑪くつろぎコーナー 囲炉裏風のベンチがあるくつろぎコーナーです。大谷選手本塁打王の特大号外パネルやロケ関係展示、ILC プロジェクトパネルなどを置いています。 担当：奥州市生涯学習スポーツ課 奥州市未来羅針盤課 奥州市商業観光課ロケ推進室	

⑫大瀧詠一コーナー 令和2年10月から駅の発車メロディが、大瀧詠一の「君は天然色」となったことを記念し始まった「大瀧詠一企画展」を、常設展示しているものです。 江刺大瀧詠一顕彰会会長である高橋晋氏の私物コレクションを展示しており、非売品や入手困難なプレミアム品も並んでいます。 関係団体：江刺大瀧詠一顕彰会	
⑬待合スペース 中央部分は駅の待合スペースを兼ねており、午前6時から午後10時まで利用することができます。この部分には、大谷選手を取り上げた新聞記事を展示しています。 また、入ってすぐの床面には、ILC誘致と「奥州市」の名称をPRするフロアラッピングを施しています。 担当：奥州市未来羅針盤課 奥州市商業観光課	

(3) 南岩手交流プラザの課題

ここまで、プラザの現状を確認してきました。つづいては、プラザが抱えている課題について考察していきます。

【課題①】新幹線駅構内にありながら、下車した旅客を十分に取りこめていない。

プラザは水沢江刺駅の改札正面にあります。ですが、下車してこれから市内に向かう人は東西出口に進んでしまい、プラザまで足を延ばしません。

駅構内にプラザを案内するフロアサインも設置しましたが、下車した旅客を十分取り込むには至っていません。

水沢江刺駅構内図。改札を出た旅客はプラザまで行かず、東西の出口に向かってしまう。

1F



【課題②】多くの「モノ」が展示されており、古い情報が残っているほか、奥州市の魅力が十分に伝わらなくなっている。

現在、プラザの展示の主役は「モノ」です。南部鉄器や岩谷堂筆筒の現物、日高火防祭のはやし屋台等の模型、企業の製品などが展示されていますが、中にはプラザの開業当時からのものが残っていたり、パネルに古い情報が記載されたままだったり、アップデートが不十分なものがあります。

【課題③】パネルや古い什器が残り、館内が狭苦しい印象になっている。

課題②とも関連しますが、展示を紹介するためのパネル（パーテーション）やイス、テーブルなどは老朽化が進み、見た目も使い勝手も悪くなっています。また、パーテーションは視界を遮り、広々としているはずの館内に狭苦しい印象を与えています。

【課題④】多くのビジネス客が訪れる場所であるのに、地域経済にとって有益な施設となっていない。

市内の工業団地には企業の進出が進み、ビジネス目的で首都圏などから水沢江刺駅に降り立つ人の姿が多く見られるようになりました。これに伴い、プラザ内でテレワークを行う人も増えてきていますが、それはあくまで空いた時間の有効活用であって、新たなビジネスの創出や地元企業とのマッチングといった地域経済へのプラスの効果はなかなか生み出せていません。

【課題⑤】デジタル技術を取り入れた観光案内機能のアップデートが必要。

プラザの観光案内所は JNTO（日本政府観光局）認定外国人観光案内所（カテゴリー 1：常駐でなくとも何らかの方法で英語対応可能）ではありますが、多言語対応能力をさらに向上させる必要があります。

また、プラザ内の展示品は「モノ」自体は見せていても、それがどこにあるのか、どうやって行ったらいいのかを表示しておらず、駅から市内への周遊につながっていません。

市では、令和 7 年 2 月から多言語対応のデジタル観光マップを導入し、マップを表示するサイネージをプラザ内に設置しており、これを有効に活用し外国人旅行者の受入れ体制を強化するとともに、駅から市内への周遊促進につなげなければなりません。

これらの課題をまとめると、プラザで改善しなければならないのは、「いかにしてプラザに入ってもらうか（呼び込み）」「いかにして奥州市の魅力を伝えるか（展示）」「ビジネスパーソンも含め、快適・便利に過ごすにはどうすればいいか（設備）」「観光案内所としてどうやって情報を提供するか（運営）」の 4 点であることが見えてきます。

4 南岩手交流プラザのリニューアルに向けて

(1) 南岩手交流プラザのターゲット

ここまで、プラザの現状と課題を見てきました。

プラザは昭和 60 年の開館以来 40 年、大小数回の改修を経て今の姿になっています。これまで新旧さまざまなコンテンツがミックスされ次第に雑居化してきたのが、プラザの現状と言えるのかもしれない。市唯一の新幹線駅にある施設として、あらゆる要素を PR したいという思いが、結果としてプラザに多くの物や情報を詰め込むことにつながったのだと考えられます。

しかし、多くの要素がプラザに盛り込まれた結果、本当に伝えたい情報やコンセプトが見えにくく

なっていました。そこで、水沢江刺駅周辺エリア全体の開発を進める中で、機能を分散し、プラザに本当に必要な機能だけを持たせることが重要です。

そのためにはまず、プラザがターゲットとする利用者を明確にする必要があります。

プラザは水沢江刺駅構内に位置していますが、改札外にあって誰でも自由に出入りすることができます。しかしながら地域住民が集まり利用することは減多になく、ほとんどは新幹線利用者が占めています。

そうであるならば、無理に地域住民をターゲットにするのではなく、あくまでプラザは、観光やビジネスといった目的に関わらず、新幹線を利用して奥州市を訪れる人たちにターゲットを絞り、その人たちに向けて奥州市の情報を発信することに注力すべきでしょう。

また、駅周辺の整備が進むことで、新幹線以外の手段でこのエリアを訪れる人が増加することも期待されます。

よってここでは交通手段を問わず、「**奥州市を訪れる市外の人**」をプラザがターゲットとする利用者と定義します。

(2) 南岩手交流プラザが担う役割

ターゲットが明確になることによって、プラザが担うべき役割も明確になります。

まず、市外から奥州市を訪れた人がほしい情報を考えてみると、観光客であれば観光地や美味しいもの、交通手段などが挙げられます。また、ビジネス客であればちょっとした仕事ができる場所やビジネスに有益な情報があれば便利に感じるでしょう。

これらに加え、市外の人に知ってほしい奥州市の情報、例えば奥州市出身の著名人であったり、奥州市の祭りであったり特産品であったり、そういった情報を提供する場としても有効活用したいところです。

すなわち、「**市外の人**のほしい情報と、市外の人に知ってほしい奥州市の情報の、双方を提供する**情報交流拠点**」であることが、プラザの大きな役割と言えるでしょう。

(3) 水沢江刺駅周辺エリアプロジェクトとの関係

もうひとつ忘れてはならないのは、プラザのリニューアルは水沢江刺駅周辺エリアプロジェクトの一部であり、同プロジェクトの方針と軌を一にすることです。

水沢江刺駅周辺エリアプロジェクトでは、この地域を「地域・企業・来訪者が共に創る奥州市の未来拠点」と位置づけ、官民連携による段階的な開発を目指すこととしています。

駅周辺の施設は徐々に整備されていく予定となっており、現時点ではプラザが駅周辺の数少ない施設のひとつであることから、プラザは「未来を発信する拠点」として、このエリアが変化していく機運を作ることが求められています。

また、プラザを訪れた人が駅周辺エリアや市内の他のエリアに足を運ぶきっかけを作るとともに、将来のビジネスにつながるアイデアを得たり次に奥州市に来た時のことを想像したりして、利用者一人ひとりがごく近い未来を想像することができる場となることも、プラザの重要な役割であると言えます。

これらの、駅周辺が変わっていくという機運と、利用者一人ひとりのごく近い未来という、二つの「**未来をイメージさせる拠点**」という役割を、プラザに課せられたもう一つの役割と定義します。

5 南岩手交流プラザの新たなコンセプト

これらのターゲットとミッションを定義したことで、プラザが今後目指すべき新たな姿も見えてきました。すなわち、「市外の人と、奥州市の人、モノ、コトを結び、未来へつなぐ拠点」という姿を、プラザの新たなコンセプトと定義します。

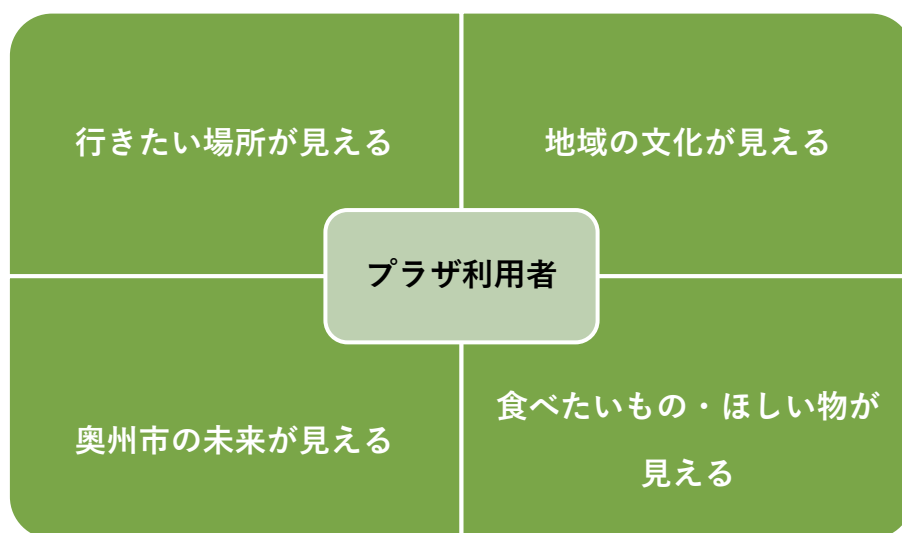
【南岩手交流プラザの Mission Vision Value】

➤ 南岩手交流プラザのミッション（やるべきこと）

南岩手交流プラザは、奥州市を訪れるすべての人に、奥州市のことをより深く知ってもらい、ここから市内へと足を延ばすきっかけとなる場所に生まれ変わります。

また、水沢江刺駅周辺が変わっていく機運を作り出すとともに、利用者一人ひとりが未来のことをイメージできる場所となることを目指します。

➤ 南岩手交流プラザのビジョン（あるべき姿）



➤ 南岩手交流プラザのバリュー（提供する価値）

①利用者が、市内のほかの場所にも行ってみたくなるようなストーリー性あるコンテンツを提供する。

②ビジネスのアイデアを得たり次に奥州市に来た時のことを想像したり、移住やふるさと納税を通じて奥州市ともっと関わりたくなるなど、利用者が、次のアクションにつながるインスピレーションを得ることができる。

6 南岩手交流プラザに必要な機能の検討

観光拠点としてニーズがある機能を、観光庁の「外国人観光案内所の設置・運営のあり方指針（令和5年3月）」を参考に列挙すると以下ようになります。ただ、これらの機能すべてをプラザで担おうとすると、現状から大きく生まれ変わることはできません。

そこで、重点的に取り組む項目は念頭に置きつつ、基本設計段階において、これらの機能を水沢江刺駅周辺で整備していく施設との分業によりプラザに真に求められる機能に絞り込み、具体化していくことを目指します。

項目	機能	現状
基本サービス	休憩スペースの提供	○
	パンフレット等の提供	○
	公衆無線 LAN サービスの提供	○
	多言語対応	△（翻訳機能による対応）
	観光施設・コンテンツの情報提供	○
	公共交通関連の情報提供	○
	割引きっぷ等の情報提供	△（駅窓口での対応）
	宿泊関連施設の情報提供	○
	両替・ATM サービスの情報提供	×
	外国人受入可能医療機関の情報提供	×
	トイレの利用	△（駅構内にあり）
付加サービス （予約・販売）	各種入場チケット等の手配	×
	ガイドの手配	△（ガイドの情報提供のみ）
	交通機関の予約	×
	宿泊予約	×
	ツアー・旅行商品手配	×
	Wi-Fi ルータ等の貸出しサービス	×
魅力・誘客向上 サービス	文化体験の提供	×
	先進技術（VR 等）の体験	×
	ご当地製品の試飲・試食	×
	ご当地製品の販売	×
	飲食の提供	△（販売不可、飲食は可能）
	レンタサイクル	×
	荷物預かり	△（駅のコインロッカー）
	宅配サービス	×



【重点項目】

- 基本サービスを強化するとともに、駅周辺エリア全体で魅力・誘客向上サービスの提供を目指します。

7 基本構想の実現に向けて

(1) 南岩手交流プラザ利活用の前提条件

プラザは奥州市が東日本旅客鉄道株式会社（以下「JR 東日本」という。）から借り受けている施設

であり、利活用にあたっては様々な制約があることに留意する必要があります。

建物使用貸借契約や同社との協議により、以下のような制約があります。

ア 駅での商品販売は、自動販売機を含め JR 東日本グループ会社のみ可能であること。なお、駅売店での販売交渉自体は可能である。

イ 現在は「展示のみを行う」ことから無償で借り受けているが、販売行為を行う場合は、そのスペース分が有償となること。その場合でも、JR 東日本グループ会社と競合するものは不可である。

ウ 転貸は禁止。あくまで市が主体となり、各団体に展示を行ってもらう形態となること。

エ 財産区分としては、床や壁面、照明器具等は市の財産となり、模様替え程度であれば JR 東日本と協議のうえ、JR 東日本グループ/パートナー会社以外でも施工することができる。

オ 壁や天井の内部は JR 東日本財産となるうえ、新幹線高架下という環境であることから、同社で可否を判断し、施工することとなる。

(2) 運営方法の検討

現在プラザには、奥州市観光物産協会へ委託し観光案内スタッフを配置しています。

これまで、デジタル観光マップの導入等により多言語対応の強化や省力化を進めてきましたが、機械にはできない「人ならではの」案内が必要となる場面があることは否定できません。

そこで今回のリニューアルでは、「奥州市の未来」をキーワードに観光案内に関わる体制の見直しを検討し、観光案内所としての基本的なサービスの拡充を図るとともに、地域の人、モノ、コトの情報も複合的に発信できるようになることを目指します。

併せて、現在は壁や柱に無造作に貼られているポスター等の紙媒体を、展示場所を整えることでキレイに見せ、手に取りたくなる情報源として活用していきます。

(3) デジタル技術のさらなる導入

魅力的な施設としてあり続けるためには、コンテンツの定期的な更新は欠かせません。これまで見てきたように、現在のプラザは昔からの展示品が多く残されており、その更新には各団体に労力を割いてもらう必要があります。

この展示手法についても、サイネージやデジタルフォトフレームを積極的に活用することで、展示の更新にかかる労力を低減し、持続可能な展示へと改めていきます。

また、プラザ内では展示のみに限られている一方、各団体、とりわけ民間事業者は、展示が売り上げにつながることを期待しています。このことは、プラザが地域経済に貢献できるかどうかという点に関わっており、無視することのできない点です。

デジタル技術の導入により、製品や商品の魅力訴求につなげるとともに、QR コードの活用による利用者の誘導にも力を注いでいく必要があります。

(4) スケジュール

リニューアルにあたっては、クオリティを確保しつつできるだけ速やかに事業を進める必要があります。

市では、令和 8 年度末までのリニューアルオープンを目指し、令和 7 年度に設計業務を、令和 8 年度に改修工事を実施する想定で、事業計画を検討しています。